

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在 江戸川区立南小岩第二小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	55.0%	55.0%
令和 7 年度の目標	50.0%	50.0%
令和 6 年度の結果	60.4%	60.5%
令和 5 年度の結果	33.3%	19.6%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	50.0%	63.0%
第 5 学年	36.3%	41.8%
第 4 学年	39.3%	37.5%
第 3 学年	32.6%	36.6%

 ともに、生きる。 江戸川区	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	・「めあて」と「まとめ」を毎時間必ず示す ・「前時のふりかえり」を行い、本時の意欲につなげるとともに、授業の終わりに「本時のふりかえり」を行い、次時への意欲につなげる ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開の手順である「つかむー考えるーかかわるー深める」を共有し、授業を行う	・基礎計算力を高めるための3分間で行う計算プリント「がんばるんぱ」を、実施する（2年生以上） ・授業や宿題で「ドリルパーク」を活用し、既習事項の定着を図る ・漢字の筆記能力を高めるため、各学期の漢字50問テストを使った「漢字王」を行い、漢字学習への取り組み強化を図る。 ・週に一回、よむYOMUワークシートに確実に取り組む。 ・学力調査の診断シートに基づき、習熟の低い単元の強化を図る	・年に5回、学校全体で計算力を競う大会「がんばるんぱ選手権」を行い、成績上位者を表彰する ・江戸川っ子Studyweek年3回にて、ドリルパークへの取り組みを確認し、個別指導を行うとともに、保護者に協力を求めながら家庭学習の習慣の確立を図る
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	・児童自身が自己の力に応じた課題や解決方法を選べるように、複数の課題や手だてを用意する ・児童の実態に応じた課題を個別に設定し、「できた」という達成感を味わわせる	・簡単な問題から取り組ませて自己肯定感を高めるとともに、つまづきを発見し、戻って指導する ・放課後EDOスクを活用し、既習事項の定着を図る	・家庭と連携し、「ドリルパーク」を毎日必ず10分間程度（個に応じる）取り組ませ、家庭学習強化週間には実施状況をカードに記録して意欲付ける ・家庭学習が定着しない児童は、週一回のスッキリタイムを活用し、補習を行う
成果指標	・「ドリルパーク」の児童学習時間を、年間で低学年は20時間、中学年は25時間、高学年は30時間以上を目指す ・学校独自の児童アンケートにおいて、「授業の内容がよくわかりますか」の肯定的な回答割合が80%以上を目指す	・校内研究授業の児童アンケートにおいて、「毎時間振り返りを行っている」「めあてとまとめを書いている」の肯定的な回答が80%以上を目指す	・校内研究授業の児童アンケートにおいて、「授業時間以外の勉強時間が30分以上」の回答割合が80%以上を目指す